

歴史資料センター特別展

『智将・島津歳久の道』

『関白と金吾さあ』

3月1日から5月27日まで、宮之城歴史資料センターで『智将・島津歳久の道』関白と金吾さあ』が開催されました。

町内外に残された島津歳久に関する遺跡や中津川大石神社の金吾さあおどり、豊臣秀吉の通った道をパネルや資料で紹介されました。また、戦国期の島津氏の勢力拡大、歳久の生涯を古文書資料や写真パネルなどでわかりやすい解説も行われました。

連日、町内外から多くの来館者が訪れ、不運に終わった島津歳久の生涯を偲んでいました。



特別展の様子

集落営農開始

3月30日、農用地利用改善組合へ認定書が交付されました。

組合は、地域内の農家が集まって、担い手のあり方、農地の活用方法などを話し合い、調整していく組織です。今回、認定された組合は、一ツ木・白男川・上平川・大長・時吉・市場・小路下手・諏訪下・園田の9地区で、この内、一ツ木地区と白男川地区の2地区については、「特定農業団体」と位置づけられる『一ツ木営農組合』、『白男川地区農作業受託組合』の集落営農組織が誕生しました。他の7地区については、集落営農組織設立に向けた話し合いが進められていきます。



認定された農用地利用改善組合の代表者

町老連

台湾の高齢者と交流研修

5月3日、町老人クラブ連合会が、台湾を訪問し、市内の高齢者グループと交流研修会を行いました。

訪台した町老連15人は、台北市敬老協会や敬老大学の理事長、学生など15人と歓談を行いました。中には、日本語が上手な方もいて、和やかな雰囲気の中、話をすることが出来ました。

話の中で、特に、台湾の全人口に対する高齢化率が10パーセントと低い事に驚きました。

帰国後、日本の高齢者の方々と交流を深めたいとメールを頂きました。



研修に参加した町老人クラブのメンバー

竹灯ろうでホタル舟をPR

5月12日、鹿児島県庁に「奥薩摩のホタル舟運航」をPRしようと、高さ約2mの竹灯ろうが贈られました。

これは、奥薩摩のホタルを守る会（上大迫重規会長）スタッフが、町内産の胴回り60cmの孟宗竹とイヌマキの根で作成したものです。

竹の表面には「鹿児島県」と「奥薩摩のホタル舟」の文字が彫り込まれており、内部から白熱灯でライトアップされています。

この竹灯ろうは、県庁行政棟内の一階ロビーにかざられ、県庁に訪れる多くの人々の目を楽しませてくれます。



県庁に竹灯ろうを設置した奥薩摩のホタルを守る会